

第1回大阪「モニ1000里地調査」参加者交流会報告

協会理事 高畠耕一郎

(財)日本自然保護協会が全国に呼びかけている「モニ1000里地調査」には、大阪府からは、コアサイトとして「枚方市の穂谷」、一般サイトでは、「池田の五月山緑地(五月山グリーンエコー)」「余野川周辺水路(池田市・人と自然の会)」「八尾市高安山山麓(個人)」が正式参加し、準備サイトとして「富田林・奥の谷」「豊中市島熊山」「吹田市紫金山」「堺市鉢ヶ峯」が参加している。それぞれが、日本自然保護協会には調査データを送付しているが、地元の大阪では調査データの集約や意見交換ができていない状況である。

そのため、日本自然保護協会の了解と協力の下、2010年11月6日保全協会事務所にて、6団体12人が集まり、意見交換や現状報告を行った。

<各地の報告>

- ・富田林の自然を守る会では、奥の谷で「植物・チョウ」を約6haの休耕田・竹林で調査を行っている。市民大学卒業生の協力で定点観測を実施中。奥の谷での新発見種が20種ほど見つかる。
- ・豊中市の島熊山の雑木林を守る会で、8.5haの千里ニュータウンの帯状緑地で植物を調べている。
- ・枚方市穂谷では、コアサイトとして、植物・野鳥・ほ乳類・カヤネズミ・カエル・チョウ・ホタル・水質などの生き物調査を総合的にしている。植物調査では、128科676種、シダ類60種、外来種の割合が12%になっている。地元の人とも相互に理解し合える関係を築いている。
- ・吹田市紫金山では、「植物・チョウ・鳥」の3種3グループで行っている。植物班は約7haの田畑と山を6時間ほどの時間をかけて調査している。
- ・池田市五月山では、森林・溪流沿い・市民の森・ハイキングコース・住宅地の5コースを設定し、植物・チョウ・鳥・ほ乳類の調査を行っている。

<意見交換>

- ① 調査手法の基準と精度についての現状報告
- ② 調査参加者の減少と後継者不足の悩みがどのグループからも出ていた。
- ③ 調査が、その地での保全の力になっているのかは、穂谷で行政、調査人、住人の三位一体の良い関係ができてはじめているとの報告があった。
- ④ 各地の調査データを大阪分としてまとめて利用するかの議論が出たが、方向性を持った結論は出ず、継続検討となった。
- ⑤ 次回交流会は、半年後の調査結果まとめができた頃に改めて設置することを確認した。